

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター

TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(20年1月分)

1. 調査実施期間 平成19年 12月20日 ~平成20年1月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

1月分の回答企業数は39社、回収率は84.8%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		20/1月	2月	3月
仕入動向	国産材	△ 23.4	△ 7.8	△ 9.7
	外材	△ 27.8	△ 6.9	△ 4.3
販売動向	国産材	△ 24.2	△ 16.1	0.0
	外材	△ 28.6	△ 11.4	7.4
在庫動向	国産材	△ 4.8	△ 1.6	△ 5.0
	外材	△ 11.4	△ 8.6	△ 7.4

仕入は、国産材、外材とも大きなマイナス幅を着実に小さくし回復基調感じられるものの、やや弱含み。

販売は、国産材、外材とも年明けの大きなマイナス幅を一気に縮め、先行きゼロ、プラス幅と好調気配出てきている。

在庫は、国産材、外材ともマイナス基調でほぼ横ばい。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	20/1月	2月	3月
スギ正角(グリーン)	△ 6.8	△ 6.8	△ 4.5
スギ正角(KD)	0.0	△ 2.2	△ 2.4
ヒノキ正角	△ 4.0	△ 4.0	△ 4.0
ヒノキ土台角	△ 1.9	△ 3.8	△ 2.0
米ツガ正角(現地挽)	2.3	6.8	6.8
米ツガ防腐土台角	0.0	8.0	8.3
米ツガ割物(現地挽)	2.2	8.7	15.2
米マツ平角	△ 2.0	△ 4.0	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 12.0	2.0	0.0
ホワイトウッド集成管柱	14.6	27.1	17.4
レッドウッド集成平角	△ 9.1	2.3	4.5
型枠合板(国産)	△ 13.9	△ 8.3	2.8
型枠合板(輸入)	△ 13.6	△ 4.5	4.8
針葉樹合板	△ 31.0	△ 9.5	2.5

スギ正角(グリーン、KD)小さなマイナス幅、ゼロと多少弱気配だが堅調な推移。またヒノキ正角、土台も同様に先行き堅調。米ツガ正角、割物、防腐土台ともプラス幅拡大し好調に勢いある。米マツ平角は小さなマイナス幅、ゼロと回復している。北洋アカマツタルキ、マイナス一気に縮め、プラス幅、ゼロと好調気配に期待大。W集成管柱、RW集成平角とも期待されプラス基調で好調だが平角の足取り遅い。

合板(針葉樹合)は極めて大きなマイナスを一気に小さなプラス幅へ回復気配強い。

1. 荷動き	コメント
仕入動向	<p>米マツ一般材丸太では、木材船の減少、フレート高、国内諸費用の値上げ等コストアップの要因は多く、米材原木の商いが続けていけるか、根底を揺るがす年初となった。(東京:問屋)</p> <p>1月配船分から製品価格に加えて船賃の値上げが入り、仕入れコストは更に上昇。(東京:問屋)</p> <p>産地の出材増えず、入荷もまだ回復していない。(東京:問屋)</p> <p>カナダより1~2月積みの正確なオファーがまだ来ていない(フレートの問題もあり)。(東京:問屋)</p> <p>安い投売りの物が少なくなり、底がたくなってきた。(東京:問屋)</p> <p>小角・割物の動きも悪い。(東京:問屋)</p> <p>米国サブプライム問題で先行き不透明感が強まり個人消費の低迷で当分期待出来ない。この推移を見て下半期に期待したい。(東京:仲買小売)</p> <p>予想はしていたが、例年になく厳しいスタート。この水準しばらく続きそう。(東京:仲買小売)</p> <p>販売量に見合う仕入量。従い在庫量は変化なし。(東京:仲買小売) 今月は売れないので仕入れない。(東京:仲買小売)</p> <p>年末から引き続き活性化する気配も無く、本当に良くない。(東海:問屋)</p> <p>3月頃まで横ばいで推移するが、その後は上向くだろう。ただ価格は上がらない。外材は増えて行かない。(東海:問屋)</p>
販売動向	<p>米マツ丸太コースト系にも不足感が始り、オールド材は今後の入荷見込みが立たず、メーカーの危機感は強い。(東京:問屋)</p> <p>注文が増えては来たが、依然として価格は厳しく、運賃分は全くの損。規格寸法品は倒産処分品が多く出回っているために依然として新規入荷品との差が大きい。(東京:問屋)</p> <p>細かい引き合いが増えてきた。ただ在庫の無いものが中心である。(東京:問屋)</p> <p>無垢材、特に構造材役物柱は皆目売れず、見積りすら入ってこない。先行き造作材に少しでも動き出ればと期待。年明け後、本当に暇である。(東京:問屋)</p> <p>今まで遅れていた仕事がようやく出始めているため、12月、1月ともに多少期待できると思う。(東京:問屋)</p> <p>荷動き悪く、旧盆明けまでこのような状態が続くと思われる(一進一退)。特に仮枠関係が悪い。(東京:問屋)</p> <p>原油価格の異常な高騰で、運送コストを木材価格に上乗せ出来るのか難しいところ。(東京:仲買小売)</p> <p>例年同様年初の荷動きは悪い。戸建木造の確認は大分スムーズにおりるようになった。建築の希望はあるのだが、景気は下降気味。需要が実現するか、先送りになるか、微妙なところ。(東京:仲買小売)</p> <p>1月は荷動きが悪いが、2月中旬から動き出してくる。(東京:仲買小売)</p> <p>国産材は底値横ばいが続き、上がる要素はない。(東海:問屋)</p> <p>販売量が減っているため、当然在庫も控えめになる。(東海:問屋)</p> <p>フレート、需給により変動。(東海:仲買小売)</p>
在庫動向	<p>米マツ丸太は大幅な入荷減から各問屋手持在庫も少なく、特にオールド系の在庫は全く見当たらない。(東京:問屋)</p> <p>新規入荷が少ないために在庫量は減少しており、特殊寸法品は欠品が続いている。(東京:問屋)</p> <p>当用買いとは言え、在庫は減ってきている。(東京:問屋)</p> <p>今年の仕事は未だ始まっていない。(東京:仲買小売)</p> <p>WW集成柱の在庫が少なくなっている。(東海:問屋)</p> <p>在庫を持つと置き場所が必要になるため、なるべく持たず当用買いをしている。持つとしてもリフォーム中心のため、間柱、筋違い、バタ角を少しだけ。(東海:仲買小売)</p>
2. 価格動向	
スギ正角	産地は買ってくれという姿勢。小安い物もある。(東京:問屋) WWに連動して価格推移。(東海:問屋)
ヒノキ正角 ヒノキ土台角	柱は上一等が売れる。土台・原木は横ばい。(東海:問屋)
米ツガ	<p>未だにグリーン注入土台は注文を受けきれない。今後フレートの件で現地コストアップを価格に転嫁出来るか?(東京:問屋)</p> <p>防腐土台角はないもの高となっている。(東海:問屋) 防腐土台角は物がない。(東海:問屋)</p> <p>3月頃から徐々に価格が上がってくると思われる。(東海:仲買小売)</p>
米マツ平角	1、2月は不需要期で動き悪い。(東京:問屋)
北洋アカマツ タルキ	
WW・RW 集成材	<p>3月末までにはWW管柱1本2,000円まで戻すと思われる。(東京:問屋)</p> <p>RW平角は1、2月は動き悪い。(東京:問屋) 底を打ったようだ。(東京:問屋)</p> <p>在庫調整により価格調整を発表したが現在の需要に結びつか? (東京:仲買小売)</p> <p>在庫調整が付き価格が上がってきた。(東海:問屋)</p> <p>WWだけ少し値戻したが、売れていくかどうかは全くわからない。(東海:問屋)</p>
合板	<p>量的に動かないながら現在値は堅持されている。(東京:仲買小売)</p> <p>価格動向が非常に読みにくい。(東京:仲買小売)</p>